

2021 年度文化講演会が開かれました 困難重なる時期に、落語で癒やされたひとときでした

伊東稔雄（広報部会）

2月27日(土)、習志野市国際交流協会と習志野中央ロータリークラブの共催による2021年度文化講演会がプラッツ習志野市民ホールで開かれました。当日は春の到来を告げるような晴天となり、約100名の方々の参加がありました。今回は日本の伝統芸能の一つである「落語」をテーマとし、その中で国際交流の視点も盛り込まれました。講師は三遊亭楽生さんと三遊亭好青年さんのお2人です。

文化交流部会部会長の日向洋美さんの進行が進められ、まず当協会吉村和就会長の挨拶がありました。コロナ渦の中、これだけ多くの皆様が来場してくださったことに対し感謝が述べられました。

さていよいよ落語のスタートです。真打の三遊亭楽生さんが自己紹介を含め、「将来、自分が笑点メンバーになったら・・・」などと大変おもしろい話題で爆笑をとった後、小話「豆みそ」を披露してくださいました。

続いてスウェーデン出身の三遊亭好青年さんの登場です。日本人にとっては当たり前のことが自分にはとても不思議だったという内容を、特にサラリーマンの働く様子を例に話してくださいました。文化の違い、習慣の違いを感じました。その後、有名な古典「時そば」を披露していただきました。

次は、お2人によるトークコーナーです。落語家になられたきっかけや落語の世界の裏



トークショー

話（師匠との関係や後輩の育て方など）をおもしろおかしく話してくださいました。また、好青年さんが小話を日本語、英語、スウェーデン語の三か国語で披露してくださいました。楽生さんは、今般の国際情勢を鑑み、とにかく平和を願っているということを強調されていました。

そして、当日のトリは楽生さんによる人情噺「徂徠豆腐」です。江戸時代の儒学者、荻生徂徠と豆腐屋七兵衛の噺です。序盤は笑いもありましたが、徐々に館内が静まりかえり、クライマックスでは涙をぬぐう方も多く見られました。その後、お2人には習志野市で有名なお店のお菓子がプレゼントされ、大きな拍手の中、講演会が終了しました。

何人かの来場者の方に感想を伺いました。

「とても面白かった。特に最後の噺が良かった。今の世の中に特に大切な内容であったように思う」

「好青年さんの努力が素晴らしい。ここまで来るのに長年かかったのだろう」

「楽生さんが素晴らしかった。特に最後の人情噺には引き込まれた」

「外国の人にも落語をわかってもらえてうれしい。もっと広まるといいと思う」

「落語を生で聞くのは初めて。やはりライブ



三遊亭好青年さん



三遊亭楽生さん

はいいと思った」

お2人にも話を伺うことができました。

「スウェーデンでは落語はほとんど知られていない。いつかスウェーデンでもやってみたい。」

「外国に行くと自国のことをよく聞かれる。自国のことを知らないことに気づき勉強した。自国の良さがよくわかった」

「人生すべて縁である。落語、師匠や仲間との縁、習志野市との縁（お2人の大師匠三遊亭圓生師匠は昭和54年9月3日、習志野市

で公演後亡くなった）、その他すべて縁である」

現在、コロナの影響で仕事が非常に困難と
のことでしたが、お2人のますますのご健勝
とご活躍を心より祈念したいと思います。

講演会の終了後、出口に向かう方々の表情
は、笑顔で柔らかなものでありました。また、
満足感、充足感に満ちたものでした。コロナ
や国際情勢の緊迫などのニュースが続く中、
短くはありましたが心が温くなる時間とな
ったのではないのでしょうか。



日向文化交流部会長



会場風景



吉村会長